

大宮工業・浦和工業新校基本計画検討委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年5月18日（木） 午後3時開会
午後4時35分終了
- 2 会 場 県立大宮工業高等学校大会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、野辺副委員長、櫻井副委員長、中出委員、宮崎委員、吉村委員、山崎委員、菊池（弘）委員、万沢委員、鈴木委員、山口委員、大高委員、宿谷委員、菊地（優）委員、井野委員、落合（範）委員、鯨井委員、白澤委員、高橋委員、大場委員、石井委員、小林委員、手島委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本

5 協 議 「大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）」について

栗藤委員長 前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、御意見を伺いました。後ほど、参考資料3の新校基本計画検討委員会議事録、また参考資料4の新校準備委員会議事録を参照いただければと思います。今回は事務局にて、両校で検討した案を踏まえ、検討し作成した骨子案を「資料1」としています。それでは、「資料1 大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）」の説明を事務局からお願いします。ボリュームがありますので、パートを分けて説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

宮崎委員 せっかく作成いただいた原案ですが、お聞きしたいことやこんな意見はどうかなどと考えていますのでお願いします。学科名についてですが、機械科、電気科、建築科については、地域に定着しているという理由から両校の既存の学科名をそのまま生かしたとの説明がありましたが、既存の学科名で生徒募集に苦戦している状況です。中学生の保護者から、大宮工業高校が新しくなるのですねという声を聞く場面が増えてきた中で、学科名が変わらないのであれば新しい感じが出ず、中学生、保護者、地域の方に新校をアピールするのは難しいのではないかと思います。また、これから10年、15年先を見据えると、これまでの機械科とこの先の機械科は同じ学びにはならないと思います。コロナ禍でこの2、3年の間にも大きく変わってきたこともあります。これから先、どのような学びが求められるのかという観点を踏まえると、もう少し先を見越した学科名の方が、変わったという良い印象を与えやすいのではないかと思います。募集学級数については、骨子案の目指す学校

アには、工業教育・情報教育を牽引しとある中で、工業科6クラス、情報科1クラスというのは両科のパワーバランス的にもよろしくないのではないかと考えています。埼玉県高等学校教育課程編成要領によると、情報科については、情報システム分野とコンテンツ分野の2つの分野に分かれます。そういう意味でも最低2クラスは必要で、その方が学びの内容がはっきりするのではないかと考えています。骨子案の教科指導の具現化に、数理・データサイエンス・AIという表現もありますので、この要素も含めた3クラス規模でも良いかと考えています。本校は最大8クラス規模までしか収容できませんので、工業科を1クラス減らして5クラスにして情報科を3クラスにして8クラスとし、両科のバランスを取ることも大事なかなと考えています。

事務局 学科名については、委員御指摘の通り、昔ながらの雰囲気があるかもしれないと思います。事務局としても横文字、カタカナ表記も検討しましたが、機械科、電気科、建築科については、学科名自体はシンプルにしつつ、その中身を、例えばモビリティコースなど学びの内容を分けて学校案内等で紹介していければ良いのではないかと考えました。まずは生徒募集の際に中学生にとって分かりやすい、浸透している学科名を原案といたしました。学科名は横文字にという御意見が多いようであれば、再度検討したいと思います。募集学級数については、情報科1クラスを原案としていますが、埼玉県の情報教育を牽引していくとうたっているながら1クラスはどうなのかというのは、委員御指摘の通りです。事務局としては、2クラス案も検討しましたが、現在、情報科を置いている学校が県内にないこと、指導できる教員数、人材育成の観点から、1クラスを原案といたしました。教員数については、徐々に増やしていければ良いのかと考えています。情報システム分野とコンテンツ分野に分かれることも十分承知しています。1年生では、全員で基礎を学び、2年生からコースに分かれるというイメージでありましたので、1クラスで良いと考えていました。3クラスとするのはなかなか難しいところではありますが、2クラスについては検討の余地はあると考えています。

栗藤委員長 生徒募集が振るわないときに学校として考えがちなのは、学科名が良くない、学科名を変えれば生徒が集まるということがあります。しかし一方で、これまで県教育委員会では、生徒募集のために学科名を変えるということはしてきてはおりません。新しい学校を作る際にはある意味チャンスであり、新校に相応しい学科名を検討していただくというのは大事なことです。何より大事なことは、中学生にとって分かりやすいということではないかと考えています。突飛な学科名はキャッチーな印象を受けますが、学ぶ内容が中学生にイメージできるのかというところは考えていくべきだと思います。学校の中で具体的な学科名の案が検討されているのであれば、この場を出していただければと思います。

宮崎委員 機械科については、例えば機械システム科。また、昨年度からモビリティ科やマシンクラフト科などの案も出ていました。モビリティ科については、鶴ヶ島にIHIの工場がありますが、現在生産されている車やバイクだけでなく、ドローンや、10年後には宇宙に行けるような未来もあるかなというところで考えた学科名

です。ロボット技術という表現は個人的にはあまり好みませんので、ロボティクスの方が格好良く思えます。ロボット技術だとロボットだけという印象ですが、ロボティクスは、ロボットみたいなのというイメージがあり、これから先永く続いていく中で、変化に対応しやすくなると思っています。新校と同じ令和8年度に、鶴ヶ島にロボティクスセンターがオープンする予定であり、そういったところと関連付けるのも良いなと思いました。電気科については、第1回の検討委員会でも出ましたが、電が付く学科は全県的に募集が厳しいということもあり、一方で、電気なのに電が無いのも分かりにくいという点も踏まえ、電気システム科ではいかがでしょうか。建築科については、施工系とデザイン系に学びの内容が分かれると思います。また、男子だけでなく女子も積極的に獲得したい思いがあり、最近では、リノベーションという言葉も出てきていることから、例えば、インテリアデザイン科。また、健全な方だけでなく全ての方にとって開かれた社会をという意味で、共生デザイン科など、漢字だけでなくカタカナを入れても良いのかなと思います。情報科については素人なのでよく分からない部分はありますが、システムデザインやコンテンツデザインなど、デザインを付けると良いのではないかと思います。各学科の統一性も意識しつつ、それぞれの学科の特徴を表すことができるのではないかと考えています。

栗藤委員長 事務局でも、学科名について様々な可能性を模索してきました。ロボティクスや〇〇デザインというのも、検討の俎上に上がっていました。中学生がデザインと聞くと、造形などアート系のデザインをイメージしやすいのではないかと、そういったことも議論として上がっておりました。

宮崎委員 先ほどの事務局の説明について2点伺います。募集学級数について、最初は7クラスにして徐々に増やせば良いのではないかと話がありましたが、そもそもそれは可能なのでしょうか。近年の状況を見ていると、地域の中学校卒業生数が増えるタイミングで単発的に普通科1クラス増とするというケースがほとんどだと思います。徐々に増やしていくという例は余り聞かないので伺います。また、情報科は1クラスにしてコース制を考えているという話がありましたが、コース制にすると、逆に確保すべき教員数が増えるのではないのでしょうか。内部努力でなんとかしている学科をいくつも見てきていますが、教員の仕事が多様化している中で、内部努力でお願いしますというのはなかなか難しいと思います。現在でも各学科、教員は一生懸命頑張っていますが、大変な様子が伺えます。そういった中でコース制にするというのは相応しくないのではないかと考えました。

事務局 徐々に増やすという説明については、新校開校後、生徒が1年、2年、3年に上がるにつれて、情報科の教員が増えていくという意味で用いました。クラス数を徐々に増やすという意味ではありませんので誤解のないようにお願いします。募集学級数については、最初にしっかり決めた方が良いと思っています。仮に毎年度の志願倍率が2.0倍を超える状況が続くようであれば、1クラスから2クラスにということもなくはないですが、そう簡単には増やせないと考えています。7クラスなのか8クラスなのか、基本計画でしっかりと固めたいと思います。コース制は難

しいのではないかという御意見については、同様の御意見が多ければ、情報科2クラスということもあり得るのかと思います。事務局としては、コース制は可能と考え、原案としたところであります。

事務局 補足です。募集学級数については、現在の大宮工業高校のこれまでの志願状況、いわゆる募集倍率と在校生が通う地域などを分析し、その地域の今後の公立中学校卒業生数の推移を掛け合わせておおよその推計をしています。浦和工業高校との統合ということで、浦和工業には比較的南部から通う生徒も多く、全ての生徒が大宮工業高校に通える状況でもないと思いますが、一定程度は新校に通うのではないかとということも加味しています。そうしてみると、だいたい7クラスだと1.0倍を超えて無理なく生徒募集ができるのかなと事務局としては考えました。工業科6クラス、情報科2クラスの計8クラス、あるいは情報科3クラスの案も出ましたが、そうすると、生徒募集を相当頑張らなければならない状況になると考えております。一方で、工業教育・情報教育を牽引していくということで、情報科もある程度クラス数が必要という御意見も分かりますし、事務局でも改めて検討していきたいと思っております。また、宮崎委員から機械システム科、電気システム科という案が出ましたが、システムを付けるそのココロを教えていただければと思います。

宮崎委員 私は電子機械科に所属していますが、もともとは機械が専門です。電子機械科に所属して初めて分かったことですが、機械単体で、消費者の手元に届く状態の製品ができるということはありません。機械加工ののち、電気を通し、かつ何かしらの制御をされている状態のものが消費者に渡っています。そういった中で、コテコテの機械加工、鉄を削ってなんちゃらということをして3年間続けていくよりは、新校が目指す学科横断的な課題研究をやっていく中で、機械の学びで身に付けた加工技術・知識を他の形に用いていけると良いと思っています。そういった理由から、機械をベースにという意味で、システムを付けた方が良いと考えています。

事務局 コテコテの機械だけでなく、発展的な学びをイメージできるということでもよろしいでしょうか。

宮崎委員 そうかなと思います。現在の本校でも、金属加工にはレーザー加工やCADが用いられ、図面の中で部品と部品の緩衝など計算ができています。今まで通り手作業で鉄を削ってというのは、10年先はもうないのではないかと思います。企業にもはや求められないのではないのでしょうか。だとすると、案としてお示した学科名であったり、思い切って、機械を無くしても良いかもしれないと思いますが、ただ代替案がなかなか思いつきません。マシクラフトですと、クラフトで手作り感が出てしまい、なんかそうではないというイメージです。機械科の教員として頭でっかちになり固定観念があるかもしれません。うまくバランスを取ってもらえればなと思います。

事務局 第1回新校準備委員会で、委員から、工業の基礎・基本を徹底した方が良いという御意見をいただいております。一方で先端的、発展的な学びも大事だと思っております。大変勉強になりました。

万沢委員 宮崎委員から学科名の提案がありましたが、大宮工業高校の中で話し合っ

て出した意見ではありません。提案があった電気システム科について、県内では秩父農工科学高校と進修館高校に、電気システム科があります。私自身、進修館高校に10年間勤務していましたが、中学生から電気科と電気システム科は何が違うのかという質問を受けることが圧倒的に多いのです。分かりやすい学科名というのであれば、電気科が良いのかなと思います。教員からしても、その違いをどうやって出したら良いのかということになります。本校では、電子機械科がありますので、制御中心になっていくのかなと思いますが、そうすると棲み分けがなかなか難しくなり、施設的な問題もあり、そういったことを踏まえると、電気科が良いと個人的には思っています。

栗藤委員長 事務局で検討しているシーンを見ているようであります。1周回って電気科ということもあります。中学生に分かりやすいということと新規の目玉として打ち出していきたいということの両立というジレンマがあります。両方の考え方があるということで意見を持ち帰りたいと思います。

菊地（優）委員 デジタル情報科という原案について質問があります。小・中学校ではICT活用が進み、情報イコールデジタルというイメージが大分定着している中で、あえて情報の頭にデジタルを持ってきた理由はあるのでしょうか。

事務局 デジタル庁が新たに発足したという背景や工業科との棲み分けをしたいという思いがありました。シンプルに情報科とする案もありましたが、工業科や商業科の科名と思われてしまうのではないかと考えたところです。新しい学科名は、他と違う学科名を付けたかったという意図がありますので、たくさんの意見をいただければ参考にしたいと思います。

菊地（優）委員 なんとなくの印象ですが、頭痛が痛いみたいにデジタルを繰り返している印象を受けてしまいます。具体的に良い案が浮かんでいるわけでもないですが、例えば教科指導の具現化で、数理・データサイエンス・AIをうたっていますので、先端的な学びをやるという意味を込めて、先端情報科や先進情報科なども良いのかなと思います。

櫻井副委員長 浦和工業の工業科の先生の多くは、情報の免許も持っています。県内には優秀な情報科の教員もいらっしゃると思いますが、工業科の教員が新校の情報科の授業を持てるのか、手当の関係もあると思いますが、可能性を検討していただけると有り難いと思います。

栗藤委員長 教員の話は採用計画や任用関係に影響しますので、現有の教員をベースに、必要があれば採用計画に組み入れるという形になると思います。工業高校の中でも情報科をしっかりと際立たせていくためには、本来は情報科の専任の教員が配置されることが望ましいということを経済局では話題にしていたところではあり、貴重な御意見としていただきました。また、募集学級数の話が出ましたが、この再編計画は、既存の施設を有効活用するというのが出発点です。大宮工業高校の校舎のサイズの的に8クラスが限度です。定時制も併置されていることも考え、事務局としては7クラスなのかなという議論がありました。8クラスにするということになると、情報科を増やすのか、2クラスなのか3クラスなのかによって今後の計

画に大きく影響しますので、しっかりと検討していきたいと思います。

宮崎委員 募集学級数に関連する話として進路指導も含めて意見を述べさせていただきます。昨年度、県外の高校を多く視察いたしました。本校でも進学する生徒が増えている中ではありますが、全工協の資料を見ますと、埼玉県工業高校から国立大学へ進学する生徒は極めて少ないと思います。他県ではコンスタントに1から2名、多いところでは10数名も輩出していますが、本県では過去4年間で1名程度です。新校が工業教育・情報教育の拠点となるということで、総合型選抜の大学入試でも、国立大学など高いレベルの大学も狙えるようになったら良いと考えています。そうすると、選抜クラスを設けることについても議論していく必要があります。現在の大宮工業のカレッジコースを継承するのとか、募集学級数を検討する際には、そういったところも含めて検討できれば良いと個人的に思っています。

栗藤委員長 今日は多くの意見をいただきましたので、持ち帰らせていただければと思います。時間もありますので、先に進みたいと思います。また何か学科名など思い付くことがありましたら、最後にいただければと思います。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)について説明)

栗藤委員長 前回の第1回新校基本計画検討委員会開催後、新校準備委員会も開催していますが、準備委員会でも様々な御意見をいただいております。例えば、目指す学校イの、基礎から Society5.0 という表現については、地域の声として準備委員の皆様からいただいた意見を盛り込んでいます。参考資料1を見ますと、両校の検討案が一つにまとまっていく様子が見えますが、それに加えて新校準備委員会での意見も盛り込んでいる点を御理解いただけると幸いです。詳細は資料にある議事録を御確認いただければと思います。また、両校が持っている校訓のようなものを直接記載することは避けるようにしています。直接的な表現は避けていますが、あの校訓はこのこの表現に生まれ変わっているのかという見方をすることもできるかと思います。ここでは目指す学校としていますが、後々、新校の目指す学校像やスクールポリシーにつながっていくものです。ここをしっかりと立たせることで、新校の方向性が見えてくることとなります。

栗藤委員長 特に意見がないようですので、次に進みます。教科指導について事務局より説明願います。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子(案)のうち基本姿勢、教科指導について説明)

栗藤委員長 教科指導の記載内容は最終的に教育課程に落とし込むこととなります。そこに向けた方向性がここに示されることとなります。

宮崎委員 教科指導だけでなく目指す学校にも、基礎的とか基礎といった表現がありますが、今の時代に合ったものづくりを教えるということが工業教育の基礎だと思います。小・中学校で金槌や鋸などの簡単な工具すら余り使っていない中で、基礎的なことを教えるということも大事だとは思いますが、基礎という言葉を使わず、違う表現にならないかと考えています。これからは基礎よりも発想力や創造力の方

が、ものづくりには大事なのではないでしょうか。どちらも大事だとは思いますが。栗藤委員長 参考資料4の新校準備委員会の議事録を御覧いただければと思います。

5番に、ものづくり全般に関する基礎をしっかりと学べるようなカリキュラムにしてほしい。「先端産業」「先端技術」の分野は、卒業後に進学・就職してから本格的に学ぶことになると思うという御意見をいただいたということも、基礎という表現を盛り込んだ理由の一つです。一方で、宮崎委員御指摘のとおり、新しい価値を創造するといった要素も含め、原案としています。基礎もそうですが、時代に合わせた先端的で高度な学び、クリエイティブな学びへの転換がされてきていると感じております。一方で、ものづくりの人材という観点から、基礎をしっかりと固めてもらいたいという御意見が出るのも分かるところであり、そういった点を整理して原案としてお示ししているところです。

栗藤委員長 他に御意見がなければ、次の生徒指導に行きたいと思います。事務局より説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導について説明)

栗藤委員長 両校案とも、工業教育ということで安全教育の重要性とそれに伴う生徒指導という観点で同じような検討案が示されておりましたので、両校案を合わせた記載になっていると思います。特に意見がないようですので、先に進みます。もし何かありましたら、最後にまとめてお伺いしますので、よろしく申し上げます。次の進路指導について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子(案)のうち進路指導について説明)

山口委員 字面について1点だけ気になりました。基本方針は、生徒一人一人と漢字表記になっていますが、具現化は、生徒一人ひとりとなっています。漢字表記に統一した方が良いのではないのでしょうか。

事務局 御指摘のとおりです。修正いたします。

栗藤委員長 全般的に言えることですが、例えば、進学フェアと言わず進路ガイダンスと表現しているように、固有名詞については使用を避け、一般的な名称に読み替えているところがあります。資格についても、具体的な資格名は記載していませんので、御容赦いただければと思います。他に御意見がなければ、次の生徒募集について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子(案)のうち生徒募集について説明)

栗藤委員長 固有名詞は避けていると言いましたが、高校生が先生のものづくり教室については、実在するため(仮)としていますが、違う表現が良いのではないかと考えております。この4月に開校した第1期の児玉高校と飯能高校においては、開校の1、2年前から、本当に精力的に生徒募集活動を行っていただきました。新校の生命線が生徒募集ですので、良い形でスタートできるよう様々な工夫ができると思い考えています。

宿谷委員 新校開校時に自分はいないと思いますので無責任な発言になってしまうかもしれませんが意見を述べたいと思います。具現化Aに、小中学校教員を対象とした研修会を実施とありますが、小・中学校間の情報交換は定期的にやっ

るかと思いますが、浦和工業高校の場合、こちらから中学校に入学する生徒について問合せて情報を得ている状況です。ここでの記載は、研修会などを定期的に行っていくという意味でしょうか。

事務局 大宮工業案を採用しています。背景として、中学校の先生方に工業教育というものがなかなか浸透していないという課題意識があります。まずは教員同士の交流を図ることで工業教育の魅力を発信していければ、中学校における進路指導に生きてくるのではないかと考えています。中学生、小学生だけでなく、小・中学校の先生方にも新校の魅力を伝えていきたいと思って記載しております。

栗藤委員長 中学校の先生方のほとんどは普通科出身で、専門高校や産業教育のことに疎い方が多いのが実態だと思います。県としても進路指導関係の中学校教員向けの研修会を県立の専門高校で行うなどの取組はやっていますが、それでもなかなか届いていないのではないかと課題意識があります。

鈴木委員 全くの門外漢で論点がずれていたら申し訳ありません。どこで発言したら良いか分かりませんでしたので、生徒募集のところで発言させていただきます。具体的には開設委員会で検討することになるのかと思いますが、これまでにないびっくりするくらいの生徒募集をやっていくかないと倍率も入学してくる生徒も変わらないでしょうし、大学進学など進路実績も伸びないと思います。入口の時点から変わっていくかないといけないと考えております。学習内容とは全然関係ないところで選んでくる生徒もいると思います。入学した後に新校の先端的な学びに耐えられないと続かないなど、そういう意味でもどういった生徒を集めるのかはとても大事であると思います。開設委員会ではよく検討していかなければと思います。骨子案1枚目、募集学級数の話に戻りますが、1クラス40人募集というのは変えられないのでしょうか。少人数で最先端の学びというものもありではないのでしょうか。中学生や保護者に熱心が伝わり、倍率が上がれば生徒の学力層も上がると思われれます。そうすれば、新校の理想に合う学びができると思います。

事務局 生徒募集の参考になればと思いますが、第1期の飯能新校では、新校開校に当たって特進クラスを設置しました。これまでより高い学力層の生徒の獲得を目指し、SNSを効果的に活用して生徒募集を行いました。結果的にギリギリではありましたが、倍率も1.0倍を超えたところです。生徒募集については各校の先生方をお願いすることが大きいですが、魅力ある高校づくり課としてもできることをやっていきますし、サポートできるところはサポートしていきたいと思います。

事務局 1クラス40人募集について、事務局からはっきり申し上げられるか分かりませんが、基本的に、標準的な1学級当たりの生徒数は40人で、法律もそう作られていますので、基本的にはそのように考えています。1クラス40人以下とする場合、特定の学校に留まらず、全県的にどうしていくのかという大きな話になってきます。よって、1クラス40人は変わらないものと認識しています。

栗藤委員長 義務教育では1クラス35人ということもありますが、学校職員の給料の3分の1を国が負担している関係から、国の制度を無視できないところがあります。国と違った運用をしていくとなると、県が独自に人件費を予算化しなければな

らなくなり、過去に例がなく難しいと考えています。この話は、国の情勢も踏まえていくことになっていくと思います。生徒募集は非常に大事なところであり、来年度入学生からは大宮工業高校だけが生徒募集をしていくこととなります。ある意味令和8年スタートまでの助走期間でもあります。この期間でどれだけ生徒が集められるかということが大事になってきます。本当に頑張っていかなければならないと我々も考えています。

落合（範）委員 具現化ウに、新聞をはじめとしたとありますが、大宮工業案を採用しているかと思いますが、あえてその言葉を言わなくても良いのではないのでしょうか。どちらかというと新聞というメディア媒体には古いイメージがあり、他の新校の骨子案にはない表現です。横並びの観点からも多少の違和感がありました。

事務局 御指摘のとおり、大宮工業・浦和工業新校のみに出てくる表現です。改めて検討したいと思います。

栗藤委員長 学校から出てきた案を採用しているものの、御意見を踏まえ検討したいと思います。大宮工業も浦和工業も新聞で取り上げられる機会が様々あることが背景にあるのだらうと考えております。それでは続いて、その他について事務局より説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうちその他について説明）

栗藤委員長 マイスター・ハイスクール事業は令和6年度で終了する予定で、その先が見えないため直接的な表現を避けているところですが、最後に一度全体を振り返って、御意見をいただければと思います。

井野委員 先ほど出た学級数、人数のところ意見が述べたいと思います。浦和工業高校の設備システム科は40人学級ではありますが、生徒募集で苦しんでおり、1から3学年まで平均して20人台です。少ない人数ではありますが、逆に実習等で機械や機器を生徒が扱う時間を十分に確保できており、それはそれで良いのではないかと考えています。新校も今と変わらず大宮工業高校の施設設備を活用することであれば、40人でなくても良いのではないのでしょうか。予算的なこともあるとは思いますが、充実した実習という観点からも、30、35、38人などもありかと考えます。それが先端産業分野で活躍できる人材の育成につながるのではないかと考えました。

栗藤委員長 実習などを含め、少人数で活動できるほうが良いのは当然ですが、財政当局との折衝や国の考え方などいろいろあるところですが、現在、県内で行われている少人数指導というのは、配置される教員数はそのままに、一人当たりの持ち時間を増やすなど各校の自助努力によってなされている例もあるため、工夫次第という面もありますが、負担軽減の観点からなかなか難しいところですが、今後、検討すべき課題かと思えます。

野辺副委員長 本日は貴重な御意見をいただき感謝します。冒頭に学科名及び募集学級数についていろいろな御意見がありました。専門高校同士の統合ということで、両校のそれぞれの学科で今までやってきたことを踏まえ、新校では先端産業分野で活躍する人材の育成を目指すこととなります。これから、各学科がどのようなコン

セプトでやっていくのか、更にはどのように生徒募集していくのか、ビジョンをしっかり描けていないとこれまでと何も変わらないということになってしまいます。各学科である程度方向性が見えてくれば、学科名についても先生方にすんなり受け入れられるのではないかと考えています。教育課程については新校開設委員会で検討していくこととなりますが、その前に、各学科でコンセプトやビジョンを描き、学科名や募集学級数についても納得した形で進めていければ良いと考えています。先生方の学科に対する思いやコンセプト、ビジョンをこれから伺っていきたいと思います。

菊池（弘）委員 デジタル情報科1クラスという原案について意見があります。普通科の高校では外国語科や〇〇コースなどを設置したりしていますが、外国語が重要だと言われ始めた頃やパソコンが導入された頃の一時的流行りに乗った学校は軒並み募集人数を減らしているはずですが、先端産業分野で活躍できる人材を育成する、工業教育・情報教育を牽引するとこれだけ大きな看板を掲げて新校を作るのであれば、デジタル情報科はやはり1クラスではないと思います。1クラスでは新校の主力にはなれないと思います。学科名はお任せしますが、新校の看板にするなら母体になるくらいの規模にする必要があるのではないのでしょうか。PCを大量に購入したり、普通科高校で情報科教員の確保に苦戦する中で人材を確保することは大変だとは思いますが、1クラスではないと思います。流行りに乗ってうまくいかなかった学校をなぞっているように思えてなりません。是非再考いただきたいと思っています。お願いします。

栗藤委員長 時間も超過しましたので、本日の協議は以上で終了いたします。副委員長の両校の教頭先生は、私たち魅力ある高校づくり課の主任管理主事を兼ねております。事務局と繋がっておりますので、色々な御意見がありましたら、教頭先生に伝えてもらえれば、私たちに届くこととなります。また、教育局の皆さんも御意見がございましたら、私たちに伝えていただければと思います。本日は御協力ありがとうございました。